

第 2 回検証委員会の概要

1. 開催日時 平成23年1月28日（金）午前9時30分～11時30分
2. 開催場所 クリーンセンター滋賀浸出水処理棟 2 階研修室
3. 出席委員 柳瀬委員長、石垣副委員長、中島委員、藤原委員
事務局：深尾副理事長、對中常務理事、成宮所長、橋本事務局次長、北村副主幹、西岡主査
施工事業者：2名

4. 会議概要

- (1) 漏水検知箇所の破損原因について (資料 1. 論点①)
- (2) 掘削工事に伴う破損原因について (資料 2. 論点②)
- (3) シートの補修効果等について (資料 3. 論点③)
- (4) 破損に伴う環境への影響について (資料 4. 論点④)
- (5) 事故情報の通報・連絡体制について (資料 5. 論点⑤)
- (6) 公社の危機管理体制について (資料 6. 論点⑥)
- (7) その他

上記の各項目毎に事務局が説明し、委員から意見および質疑があった

[主な意見および質疑]

(1) 漏水検知箇所の破損原因について

○掘削調査時に畳自体の破損はあったのか。(委員)

→掘削調査時に畳があったことは確認しているが、破損の有無までは確認できなかった。(事務局)

○埋立時にシートが破損する危険性が高い。特に法面付近での作業は難しい。作業時に起こったというのであれば、作業のやり方はどうであったのか。(委員)

→どの時点でどのような作業をしていたかの特定は難しいが、引き続き検証を進める。

破損したメッシュ 21 では平成 21 年 9 月から平成 22 年 6 月まで埋立を行っているが、平成 21 年 11 月末の写真では、相当埋立てが進んでおり、この段階で重機がシートに接触するとは考えられない。従って、平成 21 年 9 月から平成 21 年 10 月までの間の埋立作業中ではないかと推測している。(事務局)

○発生原因だけははっきりと確認しておきたい。再発する可能性もある。従来の作業方法で損傷が起こったとすれば、作業方法を変更していただきたい。(委員)

○埋立の作業時間はどうなっているのか。（委員）

→廃棄物を覆い被せる形で、その日の夕方に覆土作業を行っている。（事務局）

○廃棄物を平坦に均して、その上に覆土を均す作業になろう。平たくするに際しシートに何らかの影響を与えた可能性もある。廃棄物を落とした時ではない。平坦な作業をする時にひっかかったと考えたらよいのか。（委員）

→シートのすぐ横にはコンクリートの固定工があり、この固定工より少し高くシートが敷いてある。固定工付近での作業時にバケットがひっかかった可能性がある。（事務局）

○埋め立て作業時の重機による破損の可能性が一番大きいと考えられる。（委員）

（2）掘削工事に伴う破損原因について

○バケットにつめはあったのか。（委員）

→つめは平づめであった。（事業者）

○シートが真っ平らになっていなくて、固定工よりふくらんだ状態だったので、その平づめが当たって破損したと考えられる。（委員）

○補修がしっかりできていれば問題はない。（委員）

○この事故については、再発しないよう今後注意する外はない。（委員）

（3）シートの補修効果等について

○破損箇所の補修について、通常は一重のパッチであるが二重で行っていることやバキュームテストにより気泡が出ていないことからより丁寧に補修を行っている。

また、漏水検知器も反応していないため確実に補修ができていると認められる。

補修後も問題がないというデータも添付いただきたい。（委員）

→前回の委員会で補修後の漏水検知システムの検知結果を提出している。（事務局）

（4）破損に伴う環境への影響について

○モニタリング場所で影響の出る恐れがあるのか。（委員）

→モニタリングは法で定められた調査。多重の安全構造でありモニタリング場所で影響の出るものではないと考えている。（事務局）

○モニタリングは問題なしが当然であり、問題ありであれば大変なことになる。また、今回は法面の破損であり、底部は多重の遮水構造になっているためあり得ないとする。（委員）

○多重構造であり安全というのは予断であり、状況証拠の積み重ねが大切であると思う。安全だと思っていたことが今回の漏水検知に至った。その意味でもモニタリング等の客観的データは重要だ。その積み重ねが信頼に繋がる。（委員）

(5) 事故情報の通報・連絡体制について

(6) 会社の危機管理体制について

○6月に発生した時点で、環境監視委員会に連絡がなかったことには不満がある。

緊急通報体制が以前からあったのか。どの程度のレベルになれば通報することになっていたのか。

(委員)

→危機管理マニュアルの中では漏水検知を想定した対応が定められていなかった。昨年12月に危機管理マニュアルを一部改定し、連絡通報体制に環境監視委員会を加えるなど、出来ることから対応している。(事務局)

○今後廃棄物が増えてくるとガスや硫化水素等の発生する恐れも考えられる。(委員)

○環境監視委員会と協議の上どう対応していくかになると思う。(委員)

→環境監視委員会の委員長、副委員長に連絡することが先決だと思う。会議を開催すると調整に時間がかかることもある。今後仕組みを作っていきたい。(事務局)

○甲賀、土山地区への通報についても体制を明確にしてもらいたい。(委員)

(今後の進め方について)

○今後の検証委員会の方向性については、埋立作業マニュアルの見直し、埋立作業員への教育のあり方、緊急通報連絡体制のあり方など、論点に沿ってまとめることとなる。(委員)

○一番の議論はシートの破損だが、どの時点でのどの作業かは特定できないが埋立重機による破損との推定になる。シートの補修もされており、水質のモニタリングも問題はない。今後、事故が起こらないようどう考えていくか。その他、埋立作業方法や重機の使い方等についての先進地視察も考えてみてはどうか。再発防止のための法面付近の作業手順を詳しく作成していただいて、できれば事前に提出願いたい。(委員)

○現在の方法を具体的にこのように変えるという提案があれば議論も行いやすい。また、事故があった時だけではなく、通常から地域とのコミュニケーションや情報提供をしておく住民も安心できるのではないかと。事故が起こった場合はこういう対処を考えているといったことも含めて。

(委員)

○環境監視委員を通じて横のつながり(監視委員から住民へ)を大事にしていくという方法もある。

(委員)

○ケース別通報マニュアルや作業マニュアルは、現在のものと改訂版(例えば、「埋立作業マニュアルをこのように改定しました」など)を提示いただきたい。そうすると、議論がしやすくなる。委員会は3回の予定なので密度を濃くしたい。(委員)

○シート破損の問題については再発防止に向けた環境作りをお願いしたい。また、「シートに対する心遣い」ができるようマニュアルに反映してほしい。(委員)

○全国的にシートの保護は苦勞しているので情報収集していただきたい。（委員）

○次回の日程 3月1日（火）13：30～ 会場：「クリーンセンター滋賀」研修室2F